いわきのまちづくりビジョン、あなたの声で編む
こえあみ瓦版
2026年 6月号
制作 いわき31万人のまちづくりビジョン策定プロジェクト
発行 いわき市政策企画課

市内各地区で声を編む
こえあみワークショップ開催

わたしの声で、ビジョンを編む

市制60年となる今年、一人ひとりの声から、いわきのこれからのまちづくりにとって「旗印」となるようなビジョンを考え出そう。そんな願いを込めた「こえあみプロジェクト」が昨年秋から始まり、今年10月の発表に向けてビジョンづくりが進んでいます。

プロジェクト発足直後から、インターネットを通じたアンケート調査や勉強会などを開催し、具体的なビジョンの文言を考えてきたところですが、5月からは、プロジェクト内で出てきたキーワードにさらに磨きをかけていくため、いわき市内の公民館など14の会場で、いわきにお住まいの方から直接声を聞く「こえあみワークショップ」を実施しています。

5月16日を皮切りに毎週土曜日に開催し、最終回の6月6日まで、無事に14か所すべての会場でワークショップを開催することができました。普段からまちづくり活動に関わる方だけでなく、下は小学生から上は80代の方まで多様な方にお集まりいただき、地域ならではの文化や歴史、課題感、将来への前向きな思いなどを伺うことができました。改めて御礼申し上げます！

ワークショップで聞かれた声

こえあみワークショップは、参加者が4～6名のグループになり、①今住んでいる地域の魅力と課題、②40年後のいわきへの願い、③40年後のために今わたしができること、この3つのテーマについて、丸くカットされた模造紙に自分の考えを記入しながら、自由におしゃべりするという流れで進めました。

それぞれの会場で異なる声をたくさん伺いました。たとえば、常磐公民館では「温泉の利活用」が話題になりました。上遠野公民館や好間公民館では公共交通の充実についての声が上がるなど地域の特性が見えてきました。また、共通して出てきていたのが、内郷らしさ、四倉らしさといった地域ならではの魅力をつくっていこうという声です。

合併してなお強い地元への愛着

いわき市は、今から60年前に14もの市町村が大合併して誕生したという歴史を持っています。この間、「いわき」の統一感を醸成する取り組みも進められてきましたが、今回のワークショップでは改めて、合併前の地域を基盤とするアイデンティティが色濃く残っていること、自治意識が残っているということが示されることとなりました。それは、いわきの豊かさだと言えるはずです。

「40年後のいわきへの願い」というテーマでは、今後の人口減少を見越して、市街地や住宅地をコンパクトにするまちのあり方、公共交通の整備、居場所づくりの推進などについての言葉も数多く出てきました。また、その地域の文化や歴史、生業を守っていきたいという声もあちこちから上がっていたのが印象的でした。

ワークショップで寄せられた声を紹介

質問：あなたが住んでいる地域のいいところは？

地区	寄せられた声
いわき市全体	夏は涼しく、冬は暖かい。気候が快適で、暮らしやすい
	農産物、「常磐もの」に代表される海産物など食の豊かさ
泉	都会すぎず、田舎すぎない、のどかで静かな住み心地
平	城下町としての歴史があり、交通の弁が良い
小川	近所づきあいがよく、人がいい、田舎らしさがある
川前	地域コミュニティが密接で、クラフトビールなど名物も生まれている
内郷	国宝、炭鉱遺産、回転櫓やじゃんがら団体など、歴史と文化の遺産がある
四倉	海と山の距離感が近く、美しい。両方の自然を同時に楽しめる

質問：あなたが住んでいる地域の課題は？

地区	寄せられた声
いわき市全体	広大すぎて、移動に限界がある。公共交通が脆弱
	他の地域のことがわからない。一体感が薄い。魅力がつながらない
遠野	空き家や耕作放棄地が増えていて、景観が生かしきれていない
勿来	公共施設の老朽化。遅い時間にバスがなく、移動しにくい
常磐	歩いて楽しめる場所がもっとあるといい。もっと自信を持っていい
小名浜	近距離に大きな病院がなく医療体制に不安がある

40年後のいわきへの願いとは？

今できることも問う

「今わたしができることは？」というテーマに対しては、「地域に関わり続ける」「隣人に挨拶する」「まちづくりに対して声を上げる」といった言葉が聞かれました。「40年後に向けた願い」の質問はどうしても「要望」という形になりますが、最後のテーマで自分ごとに落とし込むことで、具体的な行動・アクションについて考えるきっかけになったようです。各地区の声について、詳しくは左の表と裏面でも紹介しています。

若い世代の願いを聞く

今回、改めて大切だと思ったことが、若い世代の参画です。ほとんどのワークショップで、10代の若い世代の参加がありました。若い世代が入ることで「40年後の未来」が現実感のあるものとなり、また若い世代の活発な意見が、テーブルでの対話を大いに盛り上げてくれました。

若い世代からも、地域の文化や歴史、地元に根づいたお祭りなどを残したいという言葉が聞かれたほか、まちづくりに日常的に関われる場所、気軽に話せる場所が必要だという言葉もありました。

40年後とは、いわき市制100年となる2066年のこと。若い世代はその未来の現役世代です。予測によれば人口は20万人を切り、高齢化率もさらに上昇しています。ワークショップではそれを悲観する声が聞かれるかと思いましたが、まちの風景や文化をいかに「残す」かという点で、皆さんから前向きな言葉が聞かれたのが印象的でした。

そうした声を積み重ねていくためにも、ビジョンが決まった後も、こうして継続的に、まちへの想いを声にし、語っていく場が必要なのかもしれません。

内郷公民館で開催されたワークショップでは、内郷まちづくり市民会議が主催する側溝清掃に参加した、いわき総合高校の生徒が参加してくれました。地域活動に参加した直後だったからか、地元への想いや期待が率直に語られていました。普段のまちづくり活動と対話の場がミックスすると、それはまちづくりの「入り口」になる。これからも、そうした場づくりを進めていきたいです。

ワークショップについて詳しくは、こえあみプロジェクトのSNSでもお伝えしています。
note（左）やいわき市公式ホームページ（右）をぜひご覧ください。

みんなで語り合う　未来のために、今、できることとは？

それぞれの語る魅力と課題

ここからは、こえあみワークショップで出てきた声を分析していきます。左の表で示したように、自然の豊かさや気候の穏やかさという自然環境をポジティブに評価する声がとても多くありました。また、ちょうどよく都市であり田舎でもあるということがいいと考える人が多くいらっしゃいました。それぞれの地域に目を向けてみると、地域ならではのよさが語られており、改めて、皆さんの想いが可視化されました。

課題については、人口減少や少子化という全国共通の課題に加え、広大な地域であるがゆえの、車に頼らざるを得ない交通環境、公共交通についてネガティブな声が頻繁に出ていました。また、内陸の地域では、空き家や耕作放棄地の問題、農業の後継者不足といった声、若い世代からは、遊ぶ場所、集まれる場所が少ないという声も聞かれました。

少し先の未来、そして今

40年後への願いというテーマでは、人口減少を見据え、AIなど科学技術を使ったサービスの普及に期待する声がありながらも、人の温もりが感じられるまちであって欲しいという声が多く聞かれました。また、それぞれの地域内でコンパクトなまちづくりを進めることで、暮らしやすさを保てるのでは?という意見や、若者たちがチャレンジできる地域であって欲しい、若者たちに地域の伝統や文化を伝えたい、という声も多くありました。裏を返すと、そうした取り組みが今はまだ十分にできていない、ということなのかもしれません。

「今できること」については、近所の人たちと話す、声を出し続ける、地域を楽しむ、若い世代に伝えるという具体的な行動が語られ、日々の小さな行動がまちづくりと直結しているんだということを改めて感じる時間となりました。まちの歴史や文化を土台に、未来を見据えながら、今できること、やれることに尽力する。時間、地域間、そして世代間の「つながり」という言葉が、重要なキーワードになっていきそうです。

ワークショップで寄せられた声を紹介

質問:今、私(あなた)のために、できることとは?

地区	寄せられた声
小名浜	なるべく地域の集まりに参加するようにしたい
常磐	大人が見本を見せて「やっていいんだ」と伝えること
勿来	福島県と茨城県をつなげる役割を意識する
好間	好間の伝統や文化を学び、つないでいく意識を持つ
久之浜･大久	隣近所の人たちともっと話す、対話を続けること
三和	三和といえばこれ！　という名産品となる商品を開発したい
内郷	内郷のコミュニティセンターをどんどん活用する
小川	田んぼ学習の継承。みんなが夢を語れる場を開催したい

質問:40年後のいわき(住んでいる地域)への想い

地区	寄せられた声
いわき市全体	ＡＩなどの先端技術を使いつつも、人のぬくもりがあって欲しい
	人口減少は仕方がない。そのうえでコンパクトなまちを維持する
泉	子どもたちが残り、戻ってこられる地域であってほしい
平	水害など、災害に強いまちづくり。ずっと安心して住み続けたい
田人	田人の風景や文化、歴史を好きでいてくれる人が集う場所であってほしい
三和	都会との違いをアピールし、スローライフが楽しめる場所

40年後のいわきに向けてまちづくりビジョン考案中

らしさを活かし、つながるまち

こえあみプロジェクトでは、これまでにインターネットを通じたアンケート調査、個人や団体への聞き取り、ワークショップなどを通じて声を集め、これからのいわきのまちづくりにおいて、どのようなビジョンがふさわしいのかを考えてきました。25名いる検討メンバーは、いわき市で暮らして活動する若者と市職員などから構成しています。

これまでの活動を通じて見えてきたのが、いわきの「多核」のあり方。いわきには大きな中心が存在せず、小さな核が分散し、それぞれが歴史や文化を持ち、暮らしを守り続けてきました。合併してひとつの市になってもなお、小さく多様な個が海流に乗ってぶつかり混じり合う「潮目の海」のように、多様性と豊かさをかたちづくっている。それが60年目のいわきの姿です。

そして、もうひとつ見えてきたことがあります。それは、まちづくりとは行政だけが行うものでも、「産業」や「観光」といった大きな言葉のなかにだけ存在するものでもないということです。まちづくりとは、私たちの日々のあいさつ、ご近所同士の声かけ、買い物や庭の掃除、家族の安寧を願う小さな祈りの中にもある。私たちは、こえあみの活動で多くの人たちに話を聞くなかで、改めてそのことに気づかされました。

私たちは、大きないわきのなかで、小さいけれど、それぞれのまちをつくり、育てる日々を、チャレンジを繰り返してきました。そう。いわきという大きな器の中身を満たすのは、それぞれの地域が持つ歴史や文化、暮らし、ひとりひとりの小さなチャレンジや、こうありたいという願いです。大きな地域だからこそ、私たちは、これまで以上に、それぞれの個が発する小さな声に耳を傾け、小さな一歩を支え、それをつなげていかなければなりません。

もし、小さな願いが声となり、時空を超えてつながっていったら。そこで生まれる力はきっと、それぞれの人や地域、歴史をつなぎ、新たな命を育て、いわきらしい風景やふるさとを守る力になる。そして、めぐりめぐって、いわきのいまを輝かせる力になっていくはず。

そんな思いをメンバー同士でぶつけ合わせながら、言葉に磨きをかけてきて、今、ビジョンの大きな方向性がようやく見えてきたところです。今年10月の発表に向け、足りない視点を随時つけ加えながら、具体的な文言について検討を重ねています。

傘と柱、2つのビジョン

ビジョンの構造についても少し触れておきましょう。私たちが今、考えているビジョンは、40年後、いわき市制100年を目指した「未来像」を示す文言。こんなまちでありたい、という理想を示すものです。ただ、理想だけが先走って、現実の政策やアクションがつながっていかなければ絵に描いた餅になってしまいます。

そこで、未来像を示すビジョンを「傘」とし、その傘を支える「柱」のビジョンもセットで考えています。この柱のビジョンは、いわき市の具体的な取り組みとビジョンとをつなげるものとなります。つまり、より「政策」に近い文言になります。この柱のビジョンは、市の職員からなる「ワーキンググループ」のメンバーを中心としながら検討が進められています。

民間のメンバーを中心として「傘のビジョン」を、市役所のメンバーを中心として「柱のビジョン」を検討している、というのが現在の状況です。もちろん、すべてのメンバーが一堂に会する検討会を何度も開催しており、慎重に言葉をすり合わせしていますので、お互いが補い合うような文言になる予定です。

7月に入ると、検討は次の段階へ入ります。ビジョンの最終的な候補をいくつかに絞り、もう一度、オープンなかたちで皆さんに共有。ご意見をいただいたうえで、最終検討へと入ります。発表は今年10月を予定していますが、ギリギリのタイミングまで、広く皆さんの声を編み込みながら決定したいと思っています。今後も、ワークショップやフォーラムなどを予定しています。最新の情報は、いわき市のウェブサイトや、こえあみプロジェクトのSNSで発信していますので、そちらもチェックしてみてください。

いわきとは、それぞれの「個」や地域、歴史や文化が織りなす一枚の旗のようなものです。私たちはその旗をさらに強く、しなやかにしていくために、さまざまな人たちの願いに耳を傾けながら、これからも声の旗を編み続けていきます。あなたの声も、聞かせてください。

見えてきたビジョンの方向性

声によって未来を選び続けるまち
価値を受け継ぎ、未来へつなげぐまち
地域の「らしさ」を活かし、つながるまち
支え合いや挑戦が生まれるまち

メンバーによる検討会の様子

編集部より

こえあみ瓦版第2号、いかがでしたでしょうか。インターネット上できまざまな情報を発信はしていますが、リアルな場所で多様な人たちと言葉を交わすことができるワークショップはやはり楽しく、それぞれの地域についても深く知ることができ、「こういう場を続けていくことが大事だよね」とメンバー一同、話しているところです。

先日、好間でのワークショップの時に、地元の方から「好間石」の話を伺いました。石を鑑賞して楽しむ「水石（すいせき）」の世界で、好間石は大変有名なのだそうです。また、上野原浄水場の水源地の話など、水に関する話がいくつもありました。つくづくいわきって広いなあ、知らないことがたくさんあるなあと思い知らされました。

まだまだいわきの知らない文化や財産、風習や歴史がある。こえあみを通じて、いわきの魅力にも、そして課題にも肉薄していきます。あなたのふるさと自慢もぜひお聞かせください（R）。

10月の新ビジョン発表に向けて
あなたの声を、聞かせてください

プロジェクトについてのお問い合わせ
いわき市総合政策部政策企画課
☎ 0246-22-1216
✉ seisakukikaku@city.iwaki.lg.jp